

平成30年度

事業報告書
収支計算書

公益財団法人兵庫県科学技術振興財団

目 次

平成30年度 事業報告

I. 法人の概要

1. 目的	1
2. 沿革	1
3. 基金の状況	1
4. 役員	1
5. 会議	
(1) 理事会の開催	2
(2) 評議員選定委員会の開催	3
(3) 評議員会の開催	4
6. 役員一部改選	
(1) 平成30年6月25日付	4

II. 事業の概要

1. 研究及び科学技術に関する助成事業（科学技術振興助成金事業）	
(1) 周知方法	5
(2) 助成金申請受付状況	5
(3) 選考委員会	6
(4) 助成金交付件数及び助成額	6
(5) 科学技術振興に関する助成金贈呈の会	7
(6) 交付対象となった研究概要	9
2. 特記事項	12

平成30年度 経理状況

貸借対照表（平成31年3月31日現在）	13
正味財産増減計算書（平成30年4月1日～平成31年3月31日）	14
正味財産増減計算書内訳表（平成30年4月1日～平成31年3月31日）	15
財務諸表に対する注記	16
財産目録（平成31年3月31日現在）	17
収支計算書（予算対比）（平成30年4月1日～平成31年3月31日）	18
監査報告書	19

平成30年度 事業報告書

I. 法人の概要

1. 目的

兵庫県における科学技術の研究開発を助成し、科学技術に関する知識及び思想の普及並びに啓発に努めることにより、科学技術の発展と科学思想の浸透を図り、もって兵庫県の産業の振興と県民の生活及び福祉の向上に資することを目的とする。

2. 沿革

昭和51年4月17日 設立許可（昭和51年4月17日付兵庫県指令文第1-3号）
基本財産 2億円（出損者：兵庫県）
昭和51年4月26日 設立登記
平成25年4月9日 公益財団法人へ移行登記

3. 基金の状況

基本財産	200,000,000円
出損金受領年月日	昭和51年4月19日
出損者	兵庫県
管理状況	兵庫県縁故債 (契約締結日：平成23年12月20日) 金額 200,000,000円

(注) 出損金はハニー化成(株)が兵庫県に寄附したものの。

4. 役員

平成30年6月25日 改選後

財団役職	氏名	所属・役職名
会長	神門 登	ハニー化成株式会社 専務取締役
理事	中前 勝彦	神戸大学 名誉教授
理事	半谷 正裕	住友ゴム工業株式会社 知的財産部長
理事	平岡 靖敏	神戸商工会議所 理事・産業部長
理事	内田 仁	兵庫県立工業技術センター 所長
理事	山崎 徹	兵庫県立大学 副学長
理事	吉田 眞也	ハニー化成株式会社 代表取締役社長
監事	鈴木 祥克	太陽グラントソントン税理士法人 パートナー税理士
監事	工藤 学	兵庫県産業労働部産業振興局 新産業課長
評議員	井上 二三夫	シスメックス株式会社 知的財産本部長
評議員	亀岡 誠司	株式会社神戸製鋼所 知的財産部長

評議員	竹村 英樹	兵庫県産業労働部 産業振興局長
評議員	山田 文一郎	大阪市立大学 名誉教授
評議員	福岡 誠	川崎重工業株式会社 技術開発本部 知的財産部長

会長 1 理事 6 監事 2 評議員 5 (計 14 名)

5. 会議

(1) 理事会の開催

① 日時 平成30年5月11日(金) 15:00~16:00

場所 兵庫県立工業技術センター 研究本館 セミナー室Ⅲ

理事会 出席者(順不同・敬称略)

理事 神門 登 ハニー化成株式会社 専務取締役

理事 中前 勝彦 神戸大学 名誉教授

理事 半谷 正裕 住友ゴム工業株式会社 知的財産部長

理事 平岡 靖敏 神戸商工会議所 理事 産業部長

理事 山崎 徹 兵庫県立大学 副学長

理事 吉田 眞也 ハニー化成株式会社 代表取締役社長

監事 鈴木 祥克 太陽グラントソントン税理士法人 パートナー税理士

事務局 水本 公治 一般社団法人兵庫県発明協会 専務理事

事務局 田中 雅道 一般社団法人兵庫県発明協会 事務局長

議決事項

(1) 第1号議案 平成29年度事業報告同収支決算(案)について

(2) 第2号議案 役員一部改選(案)について

(3) 第3号議案 評議員選定委員会開催(案)について

(4) 第4号議案 評議員会の招集について

② 日時 平成30年12月3日(月) 15:00~16:00

場所 兵庫県立工業技術センター 技術交流館 セミナー室Ⅱ

理事会 出席者(順不同・敬称略)

理事 神門 登 ハニー化成株式会社 専務取締役

理事 中前 勝彦 神戸大学 名誉教授

理事 半谷 正裕 住友ゴム工業株式会社 知的財産部長

理事 平岡 靖敏 神戸商工会議所 理事 産業部長
理事 内田 仁 兵庫県立工業技術センター 所長
理事 山崎 徹 兵庫県立大学 副学長
理事 吉田 眞也 ハニー化成株式会社 代表取締役社長
監事 鈴木 祥克 太陽グラントソントン税理士法人 パートナー税理士
監事 工藤 学 兵庫県産業労働部産業振興局 新産業課長
事務局 田中 雅道 一般社団法人兵庫県発明協会 専務理事・事務局長

議決事項

- (1) 平成30年度兵庫県科学技術振興助成金 交付（案）について
- (2) 科学技術振興に関する第43回助成金贈呈の会（案）について
- (3) 平成30年度中間期事業報告について

- ③ 日時 平成31年3月7日（木）15:00～16:30
場所 兵庫県立工業技術センター 技術交流館 共通会議室

理事会 出席者（順不同・敬称略）

理事 神門 登 ハニー化成株式会社 専務取締役
理事 中前 勝彦 神戸大学 名誉教授
理事 半谷 正裕 住友ゴム工業株式会社 知的財産部長
理事 平岡 靖敏 神戸商工会議所 理事・産業部長
理事 内田 仁 兵庫県立工業技術センター 所長
理事 吉田 眞也 ハニー化成株式会社 代表取締役社長
監事 鈴木 祥克 太陽グラントソントン税理士法人 パートナー税理士
事務局 田中 雅道 一般社団法人兵庫県発明協会 専務理事・事務局長

議決事項

- (1) 第1号議案 平成31年度事業計画同収支予算（案）について
- (2) 評議員選定委員会の開催
 - ① 日時 平成30年5月11日（金）16:00～16:30
場所 兵庫県立工業技術センター 研究本館 セミナー室Ⅲ

出席者

外部委員

三浦 久典 兵庫県立工業技術センター 次長（技術調整担当）
宮本 要 公益社団法人兵庫工業会 専務理事

関係委員

- 山田文一郎 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 評議員
(大阪市立大学 名誉教授)
- 鈴木 祥克 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 監事
(太陽グラントソントン税理士法人 パートナー税理士)
- 水本 公治 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局員
(一般社団法人兵庫県発明協会 専務理事)

事務局

- 神門 登 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 会長
(ハニー化成株式会社 専務取締役)
- 田中 雅道 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局
(一般社団法人兵庫県発明協会 事務局長)

決議事項

第1号議案 評議員選任の件について

(3) 評議員会の開催

6月18日(月)の定時評議員会は、当日発生した大阪北部地震による交通機関運休のため開催できず書面評決にて決議を行った。

① 決議があったとみなされた日 平成30年 6月25日(月)

② 書面評決評議員氏名(順不同・敬称略)

- 評議員 井上二三夫 シスメックス株式会社 知的財産本部長
- 評議員 亀岡 誠司 株式会社神戸製鋼所 知的財産部長
- 評議員 竹村 英樹 兵庫県産業労働部 産業振興局長
- 評議員 山田文一郎 大阪市立大学 名誉教授
- 評議員 福岡 誠 川崎重工業株式会社 技術開発本部 知的財産部長

③ 決議があったとみなされた事項

第1号議案 平成29年度事業報告同収支決算(案)の承認について

第2号議案 役員一部改選(案)の承認について

6. 役員一部改選

(1) 平成30年6月25日付

監事

(順不同・敬称略)

工藤 学 兵庫県産業労働部産業振興局 新産業課長 就任

次回改選期は令和3年6月予定

評議員

(順不同・敬称略)

福岡 誠 川崎重工業株式会社 技術開発本部 知的財産部長 就任
次回改選期は令和3年6月予定

II. 事業の概要

1. 研究及び科学技術に関する助成事業（科学技術振興助成金事業）

(1) 周知方法

- ・ 関係団体、県内各商工会議所・商工会・県民局等への案内送付
- ・ ホームページ掲載
- ・ 内部機関紙告知（兵庫県発明協会 機関誌 IPR）

(2) 助成金申請受付状況

① 受付期間 平成30年7月2日～平成30年9月28日

② 申請件数・金額

一般企業	3件	3,700,000円
研究機関	16件	11,213,000円
合計	19件	14,913,000円

(3) 選考委員会

① 日時 平成30年11月15日(木) 15:00~17:00

会場 兵庫県立工業技術センター 技術交流館 セミナー室II

出席者(順不同・敬称略)

委員 中前 勝彦 神戸大学 名誉教授

委員 内田 仁 兵庫県立工業技術センター 所長

委員 山崎 徹 兵庫県立大学 副学長

委員 中村 俊一 神戸大学大学院医学研究科 教授

委員 工藤 学 兵庫県産業労働部産業振興局 新産業課長

委員 黒田 公一 ハニー化成株式会社 執行役員 明石事業所所長兼技術部部長

② 研究開発助成基準

1. 助成対象

兵庫県 県下の助成を必要とする個人、企業、研究機関(大企業、大規模プロジェクトは含まない)が次に掲げる研究開発等の事業(以下「助成事業」という。)を行うに必要な経費を、会長が適当と認めるものについて、予算の範囲内において交付する。

(1) 研究開発の試作試験費に対する助成

(2) 新技術の実施化資金に対する助成

2. 選考基準

- イ. 県下の科学技術の振興に寄与するもの。
- ロ. 新規な学術または技術であること。
- ハ. その計画が申請者において実施可能なものであること。

3. 選考方法

- イ. 申請書、添付資料により審査を行う。
- ロ. 必要に応じて内容聴取、または臨場調査することもある。
- ハ. 選考は次の区分に評価する
 - A・・・助成金の交付が適当である
 - B・・・Aに準じる
 - C・・・助成金の交付は適当でない
- ニ. 助成額は、年度予算を参考に選考委員の総意により、査定する。

(4) 助成金交付件数及び助成額

一般企業	1件	200,000円
研究機関	6件	1,400,000円
合計	7件	1,600,000円

(5) 科学技術振興に関する助成金贈呈の会

前年度助成金受賞者による研究成果発表会後、第43回科学技術振興に関する助成金贈呈の会を行った。

日時 平成31年1月21日(月) 14:00~15:50

場所 生田神社会館 3階 梅の間(神戸市中央区下山手通1-2-1)

参加者 約80名

内容

1. 贈呈の会記念 成果発表会 (14:00~15:30)

2. 助成金贈呈の会 (15:30~15:50)

挨拶 会長 神門 登 氏

審査経過報告 助成金選考委員会委員長 中前 勝彦 氏

助成金贈呈式



兵庫県科学技術振興助成金 年度別実績

(助成金単位:千円)

年度	回数	一般		学校		機関		合計	
		採用件数	助成金額	採用件数	助成金額	採用件数	助成金額	採用件数	助成金額
昭和 51	第 1回	9	6,330	3	3,050	1	115	13	9,495
昭和 52	第 2回	3	1,650	5	5,100	3	305	11	7,055
昭和 53	第 3回	12	6,600	3	2,400	-	-	15	9,000
昭和 54	第 4回	6	3,600	6	4,200	-	-	12	7,800
昭和 55	第 5回	4	5,000	5	4,000	-	-	9	9,000
昭和 56	第 6回	6	6,000	5	5,000	-	-	11	11,000
昭和 57	第 7回	5	6,400	6	5,600	-	-	11	12,000
昭和 58	第 8回	4	6,800	9	8,200	-	-	13	15,000
昭和 59	第 9回	5	6,000	7	7,400	-	-	12	13,400
昭和 60	第 10回	4	5,000	8	8,300	-	-	12	13,300
昭和 61	第 11回	5	4,000	6	6,000	-	-	11	10,000
昭和 62	第 12回	4	3,700	7	6,300	-	-	11	10,000
昭和 63	第 13回	5	3,600	7	6,400	-	-	12	10,000
平成 1	第 14回	5	3,500	8	6,500	-	-	13	10,000
平成 2	第 15回	2	1,900	9	8,100	-	-	11	10,000
平成 3	第 16回	3	2,800	8	8,400	-	-	11	11,200
平成 4	第 17回	5	4,000	7	6,000	-	-	12	10,000
平成 5	第 18回	3	2,200	6	5,800	-	-	9	8,000
平成 6	第 19回	2	1,300	3	3,700	-	-	5	5,000
平成 7	第 20回	0	0	5	5,000	-	-	5	5,000
平成 8	第 21回	1	550	2	1,450	-	-	3	2,000
平成 9	第 22回	1	500	5	3,500	-	-	6	4,000
平成 10	第 23回	1	800	4	3,200	-	-	5	4,000
平成 11	第 24回	2	1,400	3	2,400	-	-	5	3,800
平成 12	第 25回	1	750	4	3,050	-	-	5	3,800
平成 13	第 26回	1	750	4	3,050	-	-	5	3,800
平成 14	第 27回	1	300	5	3,500	-	-	6	3,800
平成 15	第 28回	0	0	5	3,300	-	-	5	3,300
平成 16	第 29回	0	0	5	2,900	-	-	5	2,900
平成 17	第 30回	1	300	6	3,300	-	-	7	3,600
平成 18	第 31回	5	2,100	3	1,500	-	-	8	3,600
平成 19	第 32回	2	800	3	1,200	-	-	5	2,000
平成 20	第 33回	3	900	3	900	-	-	6	1,800
平成 21	第 34回	4	1,200	3	900	-	-	7	2,100
平成 22	第 35回	4	1,500	2	600	-	-	6	2,100
平成 23	第 36回	6	1,800	5	1,200	-	-	11	3,000
平成 24	第 37回	2	500	4	1,200	-	-	6	1,700
平成 25	第 38回	1	200	6	1,800	-	-	7	2,000
平成 26	第 39回	1	300	4	1,200	-	-	5	1,500
平成 27	第 40回	3	700	3	900	-	-	6	1,600
平成 28	第 41回	3	600	4	1,100	-	-	7	1,700
平成 29	第 42回	2	450	3	750	-	-	5	1,200
平成 30	第 43回	1	200	6	1,400	-	-	7	1,600
合計		138	96,980	215	159,750	4	420	357	257,150

(注:機関助成は昭和52年度で整備完了につき終了)

(6) 交付対象となった研究概要

「陸上競技用タイム測定器の海外展開」

合同会社ワイワイファクトリー 代表社員 柳本 友子

陸上競技短距離のタイム測定において、装置の前を通過する走者に広く赤外線を照射して、走者の体の大きな部位からの反射を検出する。従来の光電管は細いビームを手で切ると検出してしまうため大きな測定誤差を生じるが、弊社製品は「大きな部位」を検出するため、小さい部位である手は検出せず、陸上競技のフィニッシュの定義であるトルソー（胴体）の検出が可能である。

弊社製品である FASTRun-R は 2016 年のリオデジャネイロオリンピックの男子 4×100m リレーのバトン渡し練習の際に用いられ、日本の銀メダルに貢献した。その後も日本代表は FASTRun-R を使い続けている。

助成金額 2.0万円

「光学純度からの糖類の新規機能性発現予測法～マイクロ波による回転励起中の分光スペクトル解析～」

兵庫県立大学大学院工学研究科 准教授 朝熊 裕介

生命にとって重要な役割を果たすアミノ酸や糖類は、不斉炭素を複数含み、生命の起源や進化と関連している。例えば、これらは D 体や L 体の光学異性体があるものの、自然界には一方のみが存在し、両方で効能が異なる。つまり、右旋性および左旋性の違いや旋光度が、生理活性や神経伝達にとって重要である。一方で、溶液中の分子間のらせん構造が旋光性に重要であるものの定量的な評価が不足している。本研究では、不斉炭素の 4 つの置換基によって構成されたらせん構造を、マイクロ波照射によって振動・回転させる。出力や時間を変更し、その分光スペクトルから旋光性の発現機構を解明し、新薬やサプリメントの開発に貢献することを目標とする。

助成金額 2.0万円

「蛍光色素標識を用いた安価で高効率なコムギ品種識別システムの開発」

神戸大学大学院農学研究科 教授 森 直樹

農業生産や育種の現場においては、特定作物の品種識別と多様性の評価がきわめて重要である。精度の高い識別法としては、マイクロサテライト座などの高い変異性を示す DNA 領域の解析が有力である。しかし、一般にこの解析には多大な労力を要する。本研究ではコムギを用い、高い DNA 変異の検出精度をもち安価で効率の良い解析システムの開発を試みる。コムギの葉緑体 DNA に存在する 24 のマイクロサテライト配列のそれぞれに特異的なプライマーを設計し、その一方を蛍光色素により標識する。このプライマーセットを用いて PCR を行い電気泳動後に蛍光を検出できるスキャナにより解析することで、解析の大幅な省力化とコストダウンを目指す。

助成金額 2.0万円

「再生医療用血管新生促進ゲルの開発」

神戸大学大学院工学研究科 准教授 大谷 亨

人工多能性幹細胞（iPS 細胞）の臨床応用へ向け、分化誘導効率の向上と細胞分離技術の発展によって単一細胞群を得ることが近い将来に期待されている。しかしながら、体循環系に繋げた例は全くない。体循環系へ接続するためには血管新生が不可欠であるが、これが不十分であるため再組織化に成功した例はない。本研究では、体内で確実に血管新生を誘導するため、血管細胞を成長させるための成長因子を極めて安定に保持し、移植後の組織再生に適した放出制御技術の確立を目指す。これが可能となれば、iPS 細胞由来の単一な分化細胞の単離実現後の、体内移植による組織再構築環境の構築を具現化する臨床上のアプローチが提案できるものと期待できる。

助成金額 2.5 万円

「膵癌予後予測のための造影 CT 平衡相 color mapping image を用いた新規画像診断法の開発」

神戸大学大学院医学研究科 助教 増田 充弘

膵癌は腫瘍細胞を取り囲む高度の線維化を伴う事が特徴であり、この構造は、desmoplastic reaction (DR) と呼ばれ、血管や免疫細胞から腫瘍細胞を遠ざける障壁として膵癌の治療抵抗性及び予後に関与している。造影 CT の平衡相における遅延性造影は、間質の線維化の多寡を反映するとされており、この性質を用いて膵癌の DR を予測できるのではないかとという着想に至った。本研究は、膵癌の予後に寄与する DR を予測する新規画像診断法を開発する事を目的とする。膵癌切除例の術前の造影 CT で膵癌の腫瘍部分の CT 値と腫瘍内部の線維化の程度を color mapping image を用いて視覚的に評価する。本研究により非侵襲的な新規の画像診断法が開発され、治療抵抗性の膵癌が術前に予測可能となる事が期待される。

助成金額 3.0 万円

「高輝度固体円偏光発光性材料の創出」

関西学院大学理工学部環境・応用学科 教授 森崎 泰弘

電磁波の振動方向が一方向の直線偏光に対して、振動方向が時間とともに円を描くように変化するものが円偏光であり、右巻きと左巻きが存在する。ある光学活性化化合物を励起した際に、右巻きと左巻きの蛍光（またはリン光）発光強度に差がある発光を円偏光発光と言う。三次元ディスプレイの発光素子や紙幣等のセキュリティインクなど次世代色素開発といった観点から、有機円偏光発光材料の開発が望まれているが、有機化合物で円偏光発光を発現した例は未だに少ない。本研究では、面性不斉分子が織り成す構造的に安定なキラル空間を活用し、薄膜において高輝度円偏光発光する有機円偏光発光材料を開発することを目的とする。

助成金額 2.5 万円

「小型高分解能テラヘルツ分光器用光源の開発」

神戸大学大学院工学研究科 准教授 小島 磨

テラヘルツ電磁波（1 テラ=10¹²）は現在最も注目されている周波数帯の電磁波であり、物性研究だけでなく、分子の識別や超高速通信への応用が検討されている。さらに、空港での X 線を使用しないセキュリティ検査への応用などは身近な実用化の例といえる。我々の研究室ではこれまでに、線幅が狭いテラヘルツ電磁波を様々な周波数で発生させることに成功していることから、本助成金ではこの電磁波発生技術を利用した高分解能テラヘルツ分光器の実現を目指す。また、同時に、テラヘルツ電磁波の高強度化につながる物理的機構を明らかにする。

助成金額 20万円

2. 特記事項

開催日時	概要	場所
平成30年		
4月25日	会計監査（鈴木監事）	発明協会事務室（財団事務局）
5月11日	会計監査（宮口監事）	兵庫県新産業課
5月11日	第1回理事会	県立工業技術センター研究本館
5月11日	評議員選定委員会	県立工業技術センター研究本館
6月25日	評議員会	6月18日地震のため書面評決に変更
6月25日	公益法人定期報告書類オンライン提出	
7月 2日	平成30年度 助成金申請受付開始	
7月 11日	役員変更登記手続	法務局
9月28日	平成30年度 助成金申請受付締切	
9月28日	助成金平成29年度中間報告書提出締切	
11月15日	平成30年度 助成金選考委員会	県立工業技術センター技術交流館
12月 3日	第2回理事会	県立工業技術センター技術交流館
平成31年		
1月21日	科学技術振興に関する第43回助成金贈呈の会	生田神社会館 梅の間
3月 7日	第3回理事会	県立工業技術センター技術交流館
3月15日	公益法人定期報告書類オンライン提出	

貸借対照表

(公財) 兵庫県科学技術振興財団

平成 31 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

	A 科 目	B 当年度	C 前年度	D 増 減
1				
2	I 資産の部			
3	1. 流動資産			
4	現金預金	2,032,564	2,057,212	△24,648
5	現金	47,735	8,634	39,101
6	普通預金	1,984,829	2,048,578	△63,749
7	流動資産合計	2,032,564	2,057,212	△24,648
8	2. 固定資産			
9	(1) 基本財産			
10	投資有価証券	200,000,000	200,000,000	0
11	基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
12	(2) 特定資産			
13	投資有価証券	6,000,000	6,000,000	0
14	特定資産合計	6,000,000	6,000,000	0
15	固定資産合計	206,000,000	206,000,000	0
16	資産合計	208,032,564	208,057,212	△24,648
17	II 負債の部			
18	1. 流動負債			
19	未払金	300,000	300,000	0
20	流動負債合計	300,000	300,000	0
21	負債合計	300,000	300,000	0
22	III 正味財産の部			
23	1. 指定正味財産			
24	寄付金	200,000,000	200,000,000	0
25	指定正味財産合計	200,000,000	200,000,000	0
26	(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	(0)
27	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
28	2. 一般正味財産	7,732,564	7,757,212	△24,648
29	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
30	(うち特定資産への充当額)	(6,000,000)	(6,000,000)	(0)
31	正味財産合計	207,732,564	207,757,212	△24,648
32	負債及び正味財産合計	208,032,564	208,057,212	△24,648

正味財産増減計算書

(公財) 兵庫県科学技術振興財団

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

	A 科 目	B 当 年 度	C 前 年 度	D 増 減
1				
2	I 一般正味財産増減の部			
3	1. 経常増減の部			
4	(1) 経常収益			
5	① 基本財産運用益	[2,140,000]	[2,140,000]	[0]
6	基本財産受取利息	2,140,000	2,140,000	0
7	② 特定資産運用益	[28,200]	[14,100]	[14,100]
8	特定資産受取利息	28,200	14,100	14,100
9	③ 雑収益	[23]	[33]	[△ 10]
10	受取預金利息	23	33	△ 10
11	経常収益計	2,168,223	2,154,133	14,090
12	(2) 経常費用			
13	① 事業費	[1,816,851]	[1,389,102]	[427,749]
14	委員会費	12,000	9,000	3,000
15	開発助成費	1,600,000	1,200,000	400,000
16	通信運搬費	48,778	46,240	2,538
17	消耗品費	23,533	12,322	11,211
18	賃借料	82,540	81,540	1,000
19	諸謝金	50,000	40,000	10,000
20	② 管理費	[376,020]	[514,652]	[△ 138,632]
21	会議費	(60,500)	(89,000)	(△ 28,500)
22	旅費	57,000	87,000	△ 30,000
23	賃借料	3,500	2,000	1,500
24	事務費	(15,520)	(125,652)	(△ 110,132)
25	消耗品費	5,445	110,636	△ 105,191
26	通信運搬費	7,943	12,496	△ 4,553
27	雑費	2,132	2,520	△ 388
28	事務委託費	300,000	300,000	0
29	経常費用計	2,192,871	1,903,754	289,117
30	当期経常増減額	△ 24,648	250,379	△ 275,027
31	2. 経常外増減の部			
32	(1) 経常外収益			
33	経常外収益計	0	0	0
34	(2) 経常外費用			
35	経常外費用計	0	0	0
36	当期経常外増減額	0	0	0
37	当期一般正味財産増減額	△ 24,648	250,379	△ 275,027
38	一般正味財産期首残高	7,757,212	7,506,833	250,379
39	一般正味財産期末残高	7,732,564	7,757,212	△ 24,648
40	II 指定正味財産増減の部			
41	当期指定正味財産増減額	0	0	0
42	指定正味財産期首残高	200,000,000	200,000,000	0
43	指定正味財産期末残高	200,000,000	200,000,000	0
44	III 正味財産期末残高	207,732,564	207,757,212	△ 24,648

正味財産増減計算書（内訳表）

（公財）兵庫県科学技術振興財団

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

（単位：円）

1 2 3 4	A 科 目	B C 公益目的事業会計		D 法人会計	E 内部取引控除	F 合計
		研究開発助成金事業	小計			
5	I 一般正味財産増減の部					
6	1. 経常増減の部					
7	(1) 経常収益					
8	① 基本財産運用益	[1,585,740]	[1,585,740]	[554,260]	[0]	[2,140,000]
9	基本財産受取利息	1,585,740	1,585,740	554,260	0	2,140,000
10	② 特定資産運用益	[28,200]	[28,200]	[0]	[0]	[28,200]
11	特定資産受取利息	28,200	28,200	0	0	28,200
12	③ 雑収益	[23]	[23]	[0]	[0]	[23]
13	受取預金利息	23	23	0	0	23
14	経常収益計	1,613,963	1,613,963	554,260	0	2,168,223
15	(2) 経常費用					
16	① 事業費	[1,816,851]	[1,816,851]	[]	[]	[1,816,851]
17	委員会費	12,000	12,000			12,000
18	開発助成費	1,600,000	1,600,000			1,600,000
19	通信運搬費	48,778	48,778			48,778
20	消耗品費	23,533	23,533			23,533
21	賃借料	82,540	82,540			82,540
22	諸謝金	50,000	50,000			50,000
23	② 管理費	[]	[]	[376,020]	[0]	[376,020]
24	会議費	()	()	(60,500)	(0)	(60,500)
25	旅費			57,000	0	57,000
26	賃借料			3,500	0	3,500
27	事務費	()	()	(15,520)	(0)	(15,520)
28	消耗品費			5,445	0	5,445
29	通信運搬費			7,943	0	7,943
30	雑費			2,132	0	2,132
31	事務委託費			(300,000)	(0)	(300,000)
32	経常費用計	1,816,851	1,816,851	376,020	0	2,192,871
33	当期経常増減額	△ 202,888	△ 202,888	178,240	0	△ 24,648
34	当期一般正味財産増減額	△ 24,648	△ 24,648		0	△ 24,648
35	一般正味財産期首残高	7,757,212	7,757,212			7,757,212
36	一般正味財産期末残高	7,732,564	7,732,564			7,732,564
37	II 指定正味財産増減の部					
38	当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
39	指定正味財産期首残高	200,000,000	200,000,000	0	0	200,000,000
40	指定正味財産期末残高	200,000,000	200,000,000	0	0	200,000,000
41	III 正味財産期末残高	207,732,564	207,732,564	0	0	207,732,564

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

課税売上がないため、税込にて処理

2. 会計方針の変更

該当事項はなし。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
兵庫県縁故債	200,000,000	0	0	200,000,000
特定資産				
研究開発助成引当資産	6,000,000	0	0	6,000,000
合計	206,000,000	0	0	206,000,000

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
兵庫県縁故債	200,000,000	200,000,000	0	0
特定資産				
研究開発助成引当資産				
みずほフィナンシャルグループ社債	6,000,000	0	6,000,000	0
合計	206,000,000	206,000,000	0	0

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲は、現金預金、未払金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	2,057,212	2,032,564
未払金	300,000	300,000
次期繰越収支差額	1,757,212	1,732,564

財産目録

(公財) 兵庫県科学技術振興財団

平成 31 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

	A 科 目	B 内 容	C 使用目的等	D 金 額
1				
2	I 資産の部			
3	1. 流動資産			
4	現金預金			
5	現金	手元保管	運転資金として	47,735
6	普通預金	普通預金 三井住友銀行兵庫支店	運転資金として	1,984,829
7	流動資産合計			2,032,564
8	2. 固定資産			
9	(1) 基本財産			
10	投資有価証券	兵庫県縁故債(年率1.07%)	公益目的財産であり、運用益の 74.1%を公益目的事業の財源と して、25.9%を管理費の財源とし て使用している。	200,000,000
11	基本財産合計			200,000,000
12	(2) 特定資産			
13	投資有価証券	みずほファイナンシャルグループ 社債(年率0.47%)	公益目的保有財産であり、運用 益を公益目的事業の財源として 使用している。	6,000,000
14	特定資産合計			6,000,000
15	固定資産合計			206,000,000
16	資産合計			208,032,564
17	II 負債の部			
18	1. 流動負債			
19	未払金	未払い金	(一社)兵庫県発明協会に対する未 払い金	300,000
20	流動負債合計			300,000
21	負債合計			300,000
22	正味財産			207,732,564

収支計算書（予算対比）

（公財）兵庫県科学技術振興財団

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

（単位：円）

	A 科 目	B 予 算 額	C 決 算 額	D 差 異	E 備 考
1	I 事業活動収支の部				
2	1. 事業活動収入				
3	① 基本財産運用収入	[2,140,000]	[2,140,000]	[0]	
4	基本財産利息収入	2,140,000	2,140,000	0	
5	② 特定資産運用収入	[28,200]	[28,200]	[0]	
6	特定資産利息収入	28,200	28,200	0	
7	③ 寄付金収入	[0]	[0]	[0]	
8	寄付金収入	0	0	0	
9	④ 助成金戻し入れ収入	[230,000]	[230,000]	[0]	
10	助成金戻し入れ収入	230,000	230,000	0	
11	⑤ 雑収入	[0]	[23]	[△23]	
12	預金利息収入	0	23	△23	
13	雑収入	0	0	0	
14	事業活動収入計	2,398,200	2,398,223	△23	
15	2. 事業活動支出				
16	① 事業費支出	[1,844,000]	[2,046,851]	[△202,851]	
17	委員会費支出	12,000	12,000	0	
18	開発助成費支出	1,600,000	1,600,000	0	
19	助成金戻し入れ支出	0	230,000	△230,000	
20	通信運搬費支出	48,000	48,778	△778	
21	消耗品費支出	30,000	23,533	6,467	
22	賃借料支出	84,000	82,540	1,460	
23	諸謝金支出	70,000	50,000	20,000	
24	② 管理費支出	[554,200]	[376,020]	[178,180]	
25	会議費支出	100,000	60,500	39,500	
26	消耗品費支出	134,000	5,445	128,555	
27	通信運搬費支出	15,000	7,943	7,057	
28	雑支出	5,200	2,132	3,068	
29	事務委託費支出	300,000	300,000	0	
30	事業活動支出計	2,398,200	2,422,871	△24,671	
31	事業活動収支差額	0	△24,648	24,648	
32	II 投資活動収支の部				
33	1. 投資活動収入	0	0	0	
34	2. 投資活動支出	0	0	0	
35	投資活動収支差額	0	0	0	
36	当期収支差額	0	△24,648	24,648	
42	前期繰越収支差額	1,757,212	1,757,212	0	
43	次期繰越収支差額	1,757,212	1,732,564	24,648	
44					

監 査 報 告 書

平成31年 4月12日

公益財団法人 兵庫県科学技術振興財団
会 長 神 門 登 殿

監事 鈴木 祥 克 ㊟

私は、公益財団法人兵庫県科学技術振興財団の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの平成30年度の事業年度における会計及び業務の監査を行いました。その結果につき、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

- (1) 会計監査については、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）及び財産目録並びに収支計算書の正確性を検討いたしました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討いたしました。

2 監査意見

- (1) 財務諸表及び財産目録並びに収支計算書は、法人の平成30年度末日現在の財政状態並びに同年事業年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告は、法令又は定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監 査 報 告 書

平成31年 4月15日

公益財団法人 兵庫県科学技術振興財団
会 長 神 門 登 殿

監事 工 藤 学 ㊟

私は、公益財団法人兵庫県科学技術振興財団の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの平成30年度の事業年度における会計及び業務の監査を行いました。その結果につき、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

- (1) 会計監査については、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）及び財産目録並びに収支計算書の正確性を検討いたしました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討いたしました。

2 監査意見

- (1) 財務諸表及び財産目録並びに収支計算書は、法人の平成30年度末日現在の財政状態並びに同年事業年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告は、法令又は定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上